

# キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2024 『この人たちに聞こう！キャリア形成と本音』登壇者一覧



## 三浦恭子（座長）

（熊本大学大学院生命科学研究部（医学系））

ハダカデバネズミなどの長寿哺乳類における、健康長寿形質の分子メカニズムの解明と応用を目指しています。1980年、神戸市に生まれる。2003年3月奈良女子大学理学部化学科卒業。2006年3月奈良先端科学技術大学院大学大学院バイオサイエンス研究科博士前期課程修了（山中伸弥教授に師事）。2010年3月京都大学大学院医学研究科修了（山中伸弥・岡野栄之両教授に師事）。

学位取得後、慶應義塾大学医学部生理学教室において、特別研究助教、日本学術振興会特別研究員SPD、JSTさきがけ専任研究者/特任講師を経て、2014年1月から北海道大学遺伝子病制御研究所講師（テニュアトラック）。2016年8月に准教授。2017年11月に熊本大学大学院生命科学研究部（医学系）に移動し、2023年2月より教授。ラボマネージャーの夫と小学3年生および1年生の息子、ヤモリと一緒に暮らしています。趣味は家庭菜園です。青空の下で、畑を耕耘機で耕すのは気持ちが良いです（真夏以外は）。研究の内容や進め方、子育て、進路の選び方などについて、質問に答えられるかと思っています。

・ラボのウェブサイト: <https://debalab.org/>



## 甲斐歳恵

（大阪大学大学院生命機能研究科）

私の研究室では、ショウジョウバエをモデル系として、生殖幹細胞の維持機構、幹細胞から分化した生殖細胞が卵子と精子に成熟する過程、およびpiRNAを含む非コードRNAによるゲノムの安定化機構の解明を目指しています。私はだんじり祭りでも有名な大阪府岸和田市出身で、1998年に大阪大学大学院理学研究科で博士号（理学）を取得しました。

その後、カーネギー研究所で博士研究員としてショウジョウバエを用いた研究を始め、2005年からはシンガポールのテマセク生命科学研究所でPrincipal Investigatorとして研究室を主宰しました。期せずして学位を取得した大阪大学へ戻ってきたのは2015年です。アメリカで第一子を、その後シンガポールで第二子を出産しました。シンガポールは国際色が豊かな街で、私のラボにも様々な国籍の学生や研究員がいました。これらの経験から、異文化でのライフワークバランスの取り方、研究の進め方に新たな視点を得ました。私自身がアメリカ→シンガポール→日本と、猫と子供を抱えて国際引っ越しをしてきたので、国際サバイバルの渦中にいる方を応援したいと思っています。

・ラボのウェブサイト: <https://www.fbs.osaka-u.ac.jp/labs/kai/research/>  
・researchmap: [https://researchmap.jp/toshie\\_kai](https://researchmap.jp/toshie_kai)

# キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2024 『この人たちに聞こう！キャリア形成と本音』登壇者一覧



## 來生（道下）江利子 （第一三共株式会社）

2002年横浜市立大学総合理学研究科博士課程修了。2002年からアメリカ国立がん研究所（NCI/NIH）にて日本学術振興会特別研究員(DC2)として客員研究員。2006年からスタンフォード大学医学部にて研究職員。アカデミアでは、老化の分子機構の解明と、老化や疾患の予防・治療薬の開発を目指した研究に携わる。

創薬研究者として2010年に第一三共株式会社に入社。2016年よりグローバルプロジェクトマネージャーとして開発プロジェクトのマネジメントに携わる。2022年からは娘を連れてアメリカ・ニュージャージー州へ海外駐在。2024年4月より、グローバルアセット&ポートフォリオマネジメント部のグループ長として、オンコロジーの研究開発に従事。

趣味はネットサーフィンや海外旅行です。海外アカデミアでの研究、アカデミアから企業へのキャリアパス、海外赴任と子育てなどについてお話ができると思います。

- ・所属企業のウェブサイト：<https://www.daiichisankyo.co.jp/>
- ・木村宏先生（2024年会長）とのキャリアパス対談記事：  
<https://www.mbsj.jp/admins/committee/careerpath/taidan10.html>



## 佐田亜衣子 （九州大学生体防御医学研究所）

皮膚再生・老化メカニズムの解明に関する研究を行っています。幹細胞不均一性の維持と破綻を左右する分子基盤を明らかにし、皮膚の永続的な再生とレジリエンス維持を可能とするためのストラテジーを創出することを目指しています。2011年総合研究大学院大学遺伝学専攻修了。学位取得後、米国コーネル大学にて博士研究員として5年間勤務し、皮膚幹細胞研究に従事。

2016年筑波大学生存ダイナミクス研究センター助教を経て、2019年熊本大学国際先端医学研究機構にて独立。2023年7月より現職。在宅プログラマーの夫と小学4年生の娘、ウーパールーパーと一緒に暮らしています。昔はバドミントンとチャリ旅に夢中でしたが、最近は手芸とダンス（練習中）です。アカデミアにおけるキャリア形成、留学、ダイバーシティ、ワークライフバランス、SNS発信等に関する質問に答えられると思います。

- ・ラボのウェブサイト：<https://www.aikosada.com>

# キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2024 『この人たちに聞こう！キャリア形成と本音』登壇者一覧



## 武部貴則

(大阪大学／東京医科歯科大学ほか)

大阪大学 大学院医学系研究科 教授、東京医科歯科大学 統合研究機構 教授、横浜市立大学 特別教授／コミュニケーション・デザイン・センター長、シンシナティ小児病院 幹細胞・オルガノイド医療研究センター 副センター長／准教授。

なぜ受精卵は、胎内環境において緻密に構造化された器官を極めて再現性よく誘導可能であるのか？という

疑問に興味を持って研究をしています。ヒト幹細胞培養や動物個体を組み合わせながら、様々なレベルでのInterconnectedness（つながり）を生む仕組みの人為的再現を目指しています。また、半分趣味の活動として、デザイナーやアーティストなどと連携し、異分野の手法を医療に還元していくことで、生活空間の中で、一般生活者の皆さんのウェルビーイングを促すための取り組みである「ストリート・メディカル」という考え方の普及にも力を入れています。一般社団法人 Stellar Science Foundation (<https://ss-f.org/>) という研究者支援のための組織を創業し、代表理事をしています。専門分野は再生医学、幹細胞生物学、コミュニケーションデザイン学。代表著書に「治療では遅すぎる。ひとびとの生活をデザインする「新しい医療」の再定義」（日本経済新聞出版）

・ラボのウェブサイト：<https://takebelab.com/>



## 胡桃坂仁志（委員長）

(東京大学定量生命科学研究所)

クロマチンの高次構造とその変動によるゲノム機能の制御機構の解明を目指して、胡桃坂研究室では、独自に開発し発展させたクロマチン再構成技術やネイティブなクロマチン解析技術などにより研究を推進しています。名古屋で小中高を過ごし、東京薬科大・薬学部・修士、埼玉大学大学院（理化学研究所および米国Yale大にて研究）で博士（1995年）、

米国NIHでポスドク、理化学研究所で研究員、早稲田大学理工で准教授・教授などを経たのち、2018年より東京大学・定量研・教授です。

中学生の時からギターに夢中で、生物学に関連するオリジナルソングをYouTubeにて配信しています。私大、国立大、米国大、日米の研究所を経験していますので、それらを生かして若手のキャリアパスをサポートできればと思っています。

・音楽のサイト：<https://www.youtube.com/@-kurumizaka--hitoshi-6967>

・ラボのサイト：<http://www.iqb.u-tokyo.ac.jp/kurumizakalab/>